

砂丘

発行：独立行政法人 国立病院機構

鳥取医療センター

発行責任者：柏木 徹

理念

1. 人類愛に基づく、質の高い医療を提供する。
2. 患者本位の医療体制を確立し、十分な説明と同意の下に、自由意志を尊重し、人としての尊厳を守る。
3. あらゆる情報の公開に努め、医療人としての自己研鑽に努める。

雪の砂丘

年頭所感



新年明けましておめでとうございます。昨年末から新年にかけては近年にない大雪のために苦労された方も少なくなかったことと思います。そうした中、年末年始にもかかわらず出勤して業務にあたって頂いた皆様には誠にご苦労様でした。

昨年は鳥取医療センターにとって統合最初の年でしたので、何かと戸惑うことも少なくなかったかと思いますが、先ずは無事スムーズに患者移送を成し遂げ、比較的順調に統合新病院のスタートを切ることができたことは、職員の一致協力はもちろんのこと、ブロック事務所や管内機構病院のご支援を頂いたおかげと深く感謝しています。

今年は鳥取医療センター2年目の年として大きく発展するよう一層の努力を要する年となります。春からの診療報酬改定ではマイナス改定が予定されていると聞きますし、障害者自立支援法施行による影響も重心・精神・神経難病等の政策医療に特化した医療を担当している当病院にとっては大きな試練となることでしょう。また、心神喪失者等医療観察法関連の問題についても何らかの役割分担を考えることが避けがたくなってきました。

こうした状況下において従来空床が目立っていた結核病床の削減と、削減数と同数の一般病床増床の正式承認が得られたことを強い援軍としてこれからの鳥取医療センターは力強く第2歩目を踏み出しましょう。そして、これらの諸課題を乗り越えてさらに邁進するためにも、全職員が機構の理念とともに当院の「人類愛に基づく質の高い医療を提供する」ことを必ず実現するのだという信念に基づく日々の努力と、なお一層の意識改革の達成を図りましょう。

最後に、新しい年が当院が関わる患者さま・家族・地域にとって幸せ多い年になりますよう祈念するとともに、当院が地域で果たす役割がさらに大きくなることを願ってやみません。

院長 柏木 徹

鳥取医療センター臨床研究部の開設

臨床研究部長 助川 鶴平



平成17年7月1日に独立行政法人鳥取病院（精神科単科）と西鳥取病院（神経内科、小児科、内科、外科など）が統合し鳥取医療センターとなった。鳥取医療センターは中国ブロックの精神科の基幹病院

であるため臨床研究部が設立された。11月に助川が臨床研究部長に任命された。西鳥取病院では統合前から院内標榜の臨床研究部が存在したが鳥取病院には存在していなかった。精神疾患の基幹病院であるから、精神疾患を主として研究すべき臨床研究部である。しかし、これまで研究にはあまり重点を置いていなかった者が研究部長となったため、臨床研究部の運営に関し未だに暗中模索の状態である。心もとない限りである。

当院臨床研究部は、心理社会精神医学研究室、生理学研究室、薬理学研究室、老化変性性脳疾患研究室、脳発達研究室の5つの研究室から成り立っている。多忙な臨床活動の中で研究業務にも携わっている各研究室長には頭の下がる思いである。そういう私自身も、未だに診療から離れることは許されず、研究や研究部の運営に費やせる時間はわずかである。

このような現状であり当面何らかの研究成果がこの部長の率いる臨床研究部から得られると

は誰も想像しえないに違いない。しかし、はじめから成果が上がるような組織があるわけではない。初めチョロチョロ中パツパという言葉もある。研究者自身がそれぞれ感じている身近な臨床的な問題を研究の土俵に載せて解決していく中に臨床研究は成立するのではないかと考えている。今は個々の研究者が問題に気づいていただく時期であり、華々しい研究成果を期待するには、時期尚早であろう。

臨床研究部が推進すべき重要な業務のひとつに治験がある。現在、抗精神病薬の治験を一件行っているが、それに続く適当な治験が無い。ホームページを立ち上げ治験を募集するべく準備をしているところである。

また、幾つかの研究計画を立案している。それらが実行に移されれば何らかの成果として世界に公表できるものが出てくるであろう事は間違いない。

2-3年の後には、常に数件の治験が実行され、10件ぐらいの研究が行われているような臨床研究部に育てていく所存である。



「楽しかったクリスマス発表会ともちつき大会」

12月2日(金)にのびのび保育園においてクリスマス発表会ともちつき大会が行われました。当日はあいにくの天気となりましたが、園児12名、保護者他33名、病院より4名の方が来て下さいました。

まず第一部は保育園児による可愛らしい歌や踊り。たくさんのお客さんの前で、ちょっと緊張気味の子どもたちでした。

そして第二部はもちつき大会。のびのび保育園では、毎年きねとうすを使った昔ながらのもちつきを行って、なかなか出来ない体験を子どもたちと一緒に味わっています。そして最後につきたてのもちに舌鼓を打ちながら楽しい一日を過ごしました。

のびのび保育園は伝統的な行事を大切にしながらわらべうたを中心とした一人ひとりを大切にする保育を行っています。これから結婚、出産をされる方、第二子、第三子、第四子…を考えておられるお父さん、お母さん、近くで安心の院内保育所ののびのび保育園に是非、見学に来て下さいね。

職員一同お待ちしております。

のびのび保育園 田村代里子



NST（栄養サポートチーム）の活動について

神経内科 岡田 浩子

NSTが稼動する病院は急増しています。当院においては2004年12月にNST設立に向けて準備委員会が発足。院内の各部署・病棟からNSTメンバーが選定され、勉強会を重ねて、2005年4月に正式にNSTが発足しました。

NSTとは一体どういったチームなのか？

栄養管理はすべての疾患治療の上で共通する基本的医療の一つであり、一般に栄養管理をおろそかにするといかなる治療も効力を失ってしまいます。この栄養管理を症例個々や各疾患治療に応じて適切に実施することをNutrition Support（栄養サポート）といい、この栄養サポートを職種の壁を越えて実践するチームをNST（Nutrition Support Team：栄養サポートチーム）といいます。病態管理をする医師、患者のそばにいて一番患者の状態を把握している看護師、必要量や摂取量を評価し食事を調整提供する管理栄養士、薬の副作用・薬効・点滴等の管理をする薬剤師、生化学検査や栄養バランスのチェックを行う検査技師などの各専門スタッフがそれぞれの知識や技術を出し合い最良の方法で栄養支援するチームのことです。

栄養不良が続くとどうなるのでしょうか？

「たかが栄養されど栄養」

①手術や外傷、褥瘡など、②創傷治療の遅れや悪化、③手術後の合併症の増加、④免疫力の低下による感染症の増加や悪化、⑤筋力低下による日常生活の質の低下（歩行困難、嚥下障害、誤嚥性肺炎など）、こういった事が原因で入院生活が長くなり、ひどい時には死に至ることさえあるといわれています。

当院のNSTの活動

NSTの業務は患者様の栄養状態を評価し、栄養状態に問題のある場合には最適な栄養療法を提供し、またその効果を再評価するというものです。



現在、当院のNSTは医師4名、看護師3名、薬剤師1名、管理栄養士2名、検査技師1名、言語聴覚士1名、理学療法士1名、医療事務1名をもって構成され、また各病棟にサポートを行うNST専任看護師をおいています。

NST看護師が栄養療法を必要とする患者様を主治医に報告し、主治医の依頼を受け、月に2回、各職種が一同に回診、カンファレンスを行っています。その上で栄養状態の評価、症例に応じた最適な栄養療法の提言を行っています。また月に1回、定例会を設け、NSTの運営に関して話し合いを行っています。

さらに栄養療法の知識を深めるため月に1回、院内勉強会を行っており、昨年12月には、公立雲南総合病院外科の大谷順先生をお招きして講演会を開催しました。そして勉強会を通じて病院全体の問題点を検討し、栄養アセスメントの基本である体重管理方法についての新たな提言も行いました。

こうした活動から、昨年10月1日には、当院を日本静脈経腸栄養学会認定・NST稼動施設として認定していただきました。

今後、NSTは栄養障害が一因となる併発疾患を予防し、たとえ合併疾患が発生しても早期に病状を改善させるような具体策を実践していきたいと思えます。

防火避難訓練の実施

庶務係長 富田博之

病院統合後初めての防火避難訓練が、11月8日14時から昼間想定で実施された。実施15分前に消防より、本当の火事が発生したので参加できないとの連絡が入ったが、予定どおり実施した。第9病棟（精神）喫煙室から出火したとして訓練開始。火災報知器の鳴動に続き、全館への非常放送、各々消火器を片手に火元へ走り、初期消火体制をとり、患者避難を第一に、保護室・個室の開錠、避難訓練参加の入院患者及び模擬患者の援助・誘導を的確に、機敏に行い全員無事に中庭へ避難させた。

また、訓練後、消火ホースの取扱訓練を行い、新採用者等が多数参加し有意義であった。緊張感のある訓練が実施でき、職員の防火防災意識の向上が図れたのではないと思う。



外来診療科担当医表

平成 18 年 1 月 1 日現在

診療科			曜日	月	火	水	木	金
内科					岩田		塩	
					小西		小西	
精神科	初診	診察室6	坂本	土井	助川	松島	高田	
		診察室7	池成	池成	坂本	林	林	
	再診	診察室1	高田	松島	土井	高田	土井	
		診察室2	松島	坂本	川口	助川	坂本	
		診察室3	池成	林	林	池成	池成	
		診察室8	岩田		岩田	岩田	岩田	
神経内科		1	下田	岡田	井上	金藤	下田	
		2	後藤	下田	金藤	岡田	井上	
小児科		1	中野	小松	赤星	中野	赤星	
外科			池田		池田		池田	
専門外来	睡眠外来	精神科 5	坂本		高田		高田	
	神経内科 (予約制)		失語症 パーキンソン病	高次脳機能障害	失語症 パーキンソン病	嚥下障害 失語症	失語症 パーキンソン病	
			下田	下田	井上	金藤	下田	
		小児科 (予約制)	発達外来 小枝	発達外来 赤星	発達外来 中野 予防接種 15:00~16:00		発達外来 竹内	

- ◆所在地 〒689-0203 鳥取県鳥取市三津 876 番地
- ◆電話番号 0857 - 59 - 1111
- ◆診療受付時間 午前8時30分～午前11時30分
- ◆専門外来診療時間 午後1時30分～午後3時00分
- ◆休診日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始、ただし、急患の方はこの限りではありません。

当センターは、人口20万人余を有する鳥取市の西部に位置し、JR山陰本線「鳥取駅」から米子方面行きに乗り「鳥取大学前駅」と「末恒駅」の間にあり、「鳥取大学前駅」から徒歩にて約30分、「末恒駅」から約20分。または、鳥取駅前からバス(吉岡温泉行、鹿野行、青谷行等)にて約30分、「鳥取医療センター」下車。国道9号線に面した丘陵地にあります。

